

# 2024年度 学校自己評価（幼稚園）

学校法人東海大学初等中等教育課

A～Eは教員評価(Aよい Bおおむねよい Cどちらともいえない Dやや不十分 E不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
園運営 (分掌)	保護者等のアンケート結果にあらわれた課題を中心に保育・教育目標を明確にし、安全・安心な活動ができるように各分掌をが一体となって園運営の更なる改善をはかる。	保護者アンケートの結果はどの質問にも5そう思う、4大体そう思うの評価を得ることができた。五段階評価においては4.6と昨年同様であった。また教職員の同アンケートでは、各分野で保護者の評価を下回り五段階評価の平均値は4.5であった。ここに自らが認識できる課題が見えており、今後の各分野における重点目標に組み込みたい。	B	アンケートの結果から課題となる項目から優先的順位を決めて対応する必要がある。 本園の特色(教育目標や教育環境)を保護者や地域に更に発信すること。 こどもたちの興味関心を呼び起こし探求心の芽生えを招来する図書の有効利用を進めたい。教職員個人の教育力を全体に広げるための更なる努力が必要である。
保育指導 (教育課程・幼児指導)	発達段階に応じて遊びの中から課題を見出しこども自らが意欲的に課題に取り組み、身につけられるよう後押しする保育・教育を展開する。	教職員の保育への取り組みについてのアンケート項目は多くの保護者に高い評価をいただいている。 今年度は評価の平均数値が、4.6と昨年と同じ数字となったがわずかながら昨を下回っている。内容については教職員の熱心さについてが4.8と最も高く評価されている。 教育活動の内容、指導内容についても評	A	保護者参観や各行事において、子どもへのかかわり方や指導のあり方等をつぶさに見ていただき、成長の様子つまり保育・教育の成果が目に見えるように努力したい。その中でアンテナをはり、課題を見つけながら指導方法についてさらに研究を進めたい。
クラス指導	各学年の教育目標に沿って、園児一人ひとりの個性に応じた指導による学級運営の充実を図る。また、付属園としての特色あるクラス経営を実践する。	各クラスの運営・指導に関するアンケート結果は保護者・教職員ともに高い評価となっており教員も自負するところとなっている。一方でアンケート自由意見には改善を要するものも散見され今後の課題として対応したい。	A	経験の浅い若手から中堅・ベテランという三層の教員体制にあって、いずれも世代に応じた魅力を発揮している。若手の熱心さ、中堅の工夫と探求心、さらには経験豊かなベテランがそれぞれの持ち味を発揮している。しかし個人の力量には経験値の観点から差があり補い合い教えあう環境を整えていきたい。チームワークでの指導ができるようにしたい。
生活指導	子どもたちの自らの育ちを後押しすべく各自の発達状況に即した生活指導を実践する。	多様な家庭、多様な個性、多様な考え方や価値観の集合体に対して、一つの切り口からの向き合い方の生活指導は効果的とは言えない。変化する時代の流れに即応しかつ個に応じた柔軟な指導のあり方が必要となる。	B	日々行う指導の在り方について検証し結果を蓄積することによりこども一人ひとりに向き合い個に応じた指導ができるように保護者や教員集団との連携を取りながら進めたい。
進路指導	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を実現し、小学校教育にスムーズにつないでいく。	昨年度に引き続き、今年度の大きな教育目標の一つが就学前までに必要な学び(資質)の確立であった。1年生への進学に関しては、小学校との連携のもと、さまざまな取り組みを行い子どもたちが自信をもって入学できるよう自己肯定感の育成にも尽力した。	A	昨年度の50周年事業の一環として実施した研修の成果として今年度は小学校との連携を一層深めることができた。今後もさらに連携を強めながらスムーズに学校教育に進んでゆけるように幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が確立されるようにしたい。
特別活動	園行事や保育活動等の様々な体験・経験を通して、豊かな情操を培い、異なる学年との交流をはかりコミュニケーション力や創造力を育てる。	これまで中止・縮小・分散としていた多くの行事を再開することで、様々な経験・体験の機会ができた。これまで行われてきた多様な行事による教育効果が徐々に発揮されはじめた。	B	縦割り保育・教育の機会を増やし、同年齢間のみならず異年齢間のコミュニケーションがとれるような特別活動を盛り込みたい。社会の変化に柔軟に対応しながら計画ができるように行事プランの検討を重ねていきたい。
研修	常に教育改革等改善点を模索し園児・保護者が満足できる教育や運営をおこなう。	昨年同様受講が可能な限り、研修に積極的に参加した。 宗像市主催の研修や園内で行う各種の研修により研鑽を積むことができています。	B	業務体制・労働条件の範囲の中で受け得る研修に参加できるように時間を設定したい。 更なる自己研鑽や現場に反映できるような幅のある研修にも参加し園全体で共有できる環境をつくりたい。